

岩手県の雑穀振興の取り組み

岩手県農林水産部農産園芸課

●岩手県の雑穀生産の概要

岩手県の雑穀生産量は、742トン（平成17年産）で全国の約6割を占める日本一の生産県です。

県内の主産地は花巻地域と二戸地域ですが、平成19年の雑穀栽培面積の約6割を花巻地域が、約2割を二戸地域が占めています。

花巻地域では、ヒエ、ハトムギを主体に雑穀を水田転作作物として位置付け、JAいわて花巻が生産部会を組織するなど、地域をあげた生産拡大

の取り組みを進め、栽培面積は平成13年度の約80haから19年度の315haへと急速に拡大しています。

一方、二戸地域は、古くから雑穀産地としての歴史があり、現在は畑地でのアワ、キビを主体とした栽培となっています。

同地域の栽培は中小規模栽培が中心ですが、有機栽培や生産者名を明示した販売など、こだわりの生産販売が行われています。

■全国の雑穀類生産状況（平成17年産）

		ヒエ	アワ	キビ	ハトムギ	アマランサス	タカキビ	計
面積 (ha)	全国①	160	152	233	333	41	54	973
	岩手県②	143	63	78	109	21	8	422
	②/① (%)	89.4	41.4	33.5	32.7	51.2	14.3	43.4
収穫量 (t)	全国①	402	119	200	497	36	17.8	1,272
	岩手県②	366	87	102	145	24	17.8	742
	②/① (%)	91.0	73.1	51.0	29.2	66.7	100.0	58.3

資料：平成17年度新需要穀類等生産・流通体制確立事業実績報告書
：（平成18年3月 財団法人農業振興奨励会）

■岩手県における雑穀類栽培面積の年次推移

（単位：ha）

作物名	S40年	50年	60年	H元年	5年	11年	15年	16年	17年	18年	19年
ヒエ	4,940	1,140	228	261	157	48	144	152	143	105	123
アワ	365	-	-	45	3	22	18	43	63	92	92
キビ	121	-	-	31	6	23	33	73	78	8	120
ハトムギ	-	-	15	46	-	45	91	87	109	142	168
アマランサス	-	-	-	3	10	5	10	19	21	32	20
タカキビ	-	-	-	-	-	-	5	5	8	9	18
計	5,426	1,140	243	386	176	143	301	379	422	462	541

資料：昭和40年～平成19年ヒエは農作物統計、その他平成17年までは農産業振興奨励会調べ、
：平成18～19年は農産園芸課調べ（「-」は調査未実施）。

■振興局別作付面積（平成19年産）

（単位：ha）

振興局名	ヒエ	アワ	キビ	ハトムギ	アマランサス	タカキビ	計
県南	96	19	55	165	0	3	338
盛岡	9	7	8	3	1	0	29
大船渡	0	0	1	0	0	0	2
釜石	0	0	0	0	0	0	0
宮古	1	8	9	0	0	0	18
久慈	11	6	3	0	3	1	24
二戸	6	52	44	0	16	14	131
計	123	92	120	168	20	18	541

資料：岩手県農林水産部農産園芸課業務資料

●本県の雑穀振興の取り組み

本県雑穀の課題として、生産面では、水田栽培における除草作業の機械化が未確立であり、単収が低いことが挙げられます。

また、流通・販売面では、ニーズの多様化が進み、実需者から多様な品目をブレンドした商品が求められておりますが、加工品開発や新たなメニュー開発など付加価値を高める取り組みが弱く、岩手の雑穀の強みを生かしきれておりませんでした。

そこで、県は、平成18年12月に策定した「岩手県雑穀振興プラン」に基づき、各地域において、JA や生産グループ、行政機関等による生産拡大と併せて、一層の需要拡大に向けて、加工業者、ホテル、外食産業や観光産業等とも連携を図り、生産から消費までの各面での取組みの強化を図り、課題解決に取り組んでいます。



豆・そば用汎用コンバインによるキビ収穫実証



盛岡市内ホテルと連携した「雑穀料理のタベ」



親子で作る「雑穀料理教室」

●品種開発

本県では、岩手県雑穀遺伝資源センターが、県内各地で栽培されている在来種等の多様な雑穀遺伝資源を収集するとともに、品質・収量・作業性の優れた優良雑穀系統の選抜を行っています。

県はこの遺伝資源を活用したオリジナル雑穀品種の開発にも取り組んでおり、その結果、平成20年度に半もち短稈ヒエ品種を作出したところであり、今後も、多収で食味の良い品種等の開発を進めることとしています。

なお、本県では、雑穀の栽培が県内全域に拡大していることから、雑穀遺伝資源センター等との連携により、産地ごとの種子生産、供給体制のあり方について検討し、安定的な種子供給体制の確立を図ることとしています。

●今後の取り組み

県は、雑穀需要の変化や、生産、販売一体となった安全・安心なブランド確立、岩手ならではの商品づくり等への対応を検討するため、外部有識者等から成る「岩手県産雑穀生産・販売戦略検討委員会」を設置し、雑穀主産県としての地位確立に向けた今後の本県産雑穀の生産・販売戦略を策定することとしています。